

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みかづき発寒		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感をもって通所でき、職員との信頼関係が保護者にも伝わっている。	職員が個別支援計画に基づき一人ひとりに寄り添った支援を意図的に行い、日常的な声かけや関わりを通じて信頼関係を築いている。また、子どもが安心して活動に参加できるよう生活空間や活動の環境づくりにも配慮している。	個別支援の質を維持しつつ、声かけや関わりを工夫をさらに丁寧に行い、子どもと保護者双方が安心して過ごせる環境を強化する。
2	大きなイベントや日常の活動で、子どもが楽しみながら参加し、刺激や達成感を得られる。	みかづきフェスなどの大きな取り組みや、日常でのイベント企画など達成感を得られる段階的な課題設定を意図的に行い、子どもが興味・関心を持って参加できるよう工夫している。また、活動中の成功体験を通して自信や意欲を高める取り組みも行っている。	活動や行事のバリエーションを増やし、子ども一人ひとりの発達段階や興味関心に応じた内容を充実させることで、自己肯定感や社会性の向上にもつなげる。
3	保護者が安心して子どもを預けられるよう、情報提供と安全管理が整っている。	通信やホームページ、SNS等で日常の活動や行事予定、安全に関する情報を意図的に発信している。また、避難訓練や安全マニュアルを整備し、職員・子ども双方の安全意識向上を図っている。	情報提供の頻度や方法をより工夫し、写真・動画・報告書なども活用して、日常の安全管理や支援の工夫が保護者に見える形で伝わるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練や安全マニュアルの認知度のばらつき	訓練は定期的実施しているものの、頻度が少ないことや、保護者への説明が十分でないことにより、保護者が内容や目的を十分に理解できていない状況がある。また、訓練の成果や日常での安全管理への活かし方が伝わりにくく、保護者の安心感に差が生じている。	訓練や安全マニュアルの内容を保護者にわかりやすく伝えるため、写真や動画、報告書等を活用した周知を行い、訓練の目的や日常での安全管理への反映方法も丁寧に説明する。さらに訓練の頻度や内容を見直し、保護者が理解しやすく参加しやすい仕組みを整える。
2	家族支援プログラムや研修会への理解・参加のばらつき	家族支援プログラムや研修会は実施しているが、開催や案内の周知が十分でないため、保護者が参加をためらう場合や内容を理解しきれない場合がある。また、参加できた保護者とできなかった保護者の情報格差が生じ、家庭との連携や支援の一体感に差が出ることもある。	プログラムや研修会の内容や目的を明確に伝え、参加しやすい日時や方法を工夫する。通信やホームページ、SNS等を活用し、希望する保護者が必要な情報を受け取れる体制を整え、家庭との連携をより密にして支援の充実を図る。
3	活動スペース・設備や職員配置についての情報の伝わり方	活動スペースや設備、職員配置については十分に整備されているが、保護者にはその意図や配慮の内容が十分に伝わっていない場合がある。特に、障害特性に応じたバリアフリーや情報伝達への配慮について、具体的な工夫や日常の支援の様子が見えにくく、理解のばらつきが生じている。	活動空間や設備、職員配置について、保護者に視覚的に示す資料や写真、日常の活動報告を活用して説明する。見学機会や説明会を設けるなど、保護者が安心して利用できる環境であることを理解できる工夫を継続的に行う。